

B枝は下垂したりねじれたりしない

C 細葉 葉や花は総て互生する

D 細葉 葉裏はやや白味がある

E葉は被針形-広被針形が標準

F側脈は裏凸する 若葉は有毛、裏中脈は多毛 成葉表(中脈除く)は後無毛 新枝は有毛

G葉縁は強く裏に巻き弧状鋸歯;葉革質;裏側脈・細脈は凸出し肋脈状

托葉は鋭頭の細卵形-曲長卵形だが、縁が裏巻きし被針形に見える 葉裏はやや多毛から、後無毛(キヌヤナギ節2)

(SGOHKTY、四以北、亜高山-丘陵、陽湿地)(小高木;葉5細)【11オノエヤナギ】

新葉の表は密毛 無毛;裏は密毛 多毛;毛は早落性

葉表はすぐほぼ無毛、中脈は有毛 無毛

;葉裏はやや多毛 散毛 ほぼ無毛、中脈は多毛 多少残る

若葉は表緑、毛が落ちるとやや艶あり 表暗緑;裏粉白-淡緑

葉表は中脈凹-やや凹、側脈はやや凹;裏は中脈極凸、側脈凸、細脈はやや微凸、やや肋脈(注)

葉は全縁-やや弧状鋸歯;弧状鋸歯だが縁は強く裏に反り全縁に見える

;腺先は縁に接するか埋まる感じ

成葉は被針形-広被針形;革質 100-160mm、巾10-20mm

葉柄は微毛多 無毛、毛は次第に脱落 葉柄10mm程

托葉は偏広被針形、鋸歯縁、明1脈-不明1脈;基部に腺密集;縁が裏巻きし線形に見える

托葉痕は点状で、葉柄の1/5巾

新葉の側縁はの字状に強く裏巻き、葉身はやや槍先形となる

新枝は微毛密生 ほぼ無毛、芽やや密毛-微毛やや密生 Y本年枝は有毛と無毛がある

(Y;道ではエゾノキヌヤナギと間違いやすいが、同種は白い絹毛が密集し強い光沢があるので区別できる)

(C;北海道では最も普通にみられ、枝も葉も無毛。細葉類のうちで、量的に基本タイプで、先ずこの葉を良く覚える必要あり、入門用の基本的種である。これが同定できないと他の同定も不確かになりかねない)

(C;種間雑種がしばしば見出され、葉による同定が困難な場合もある)(M18;標本は特別の臭気あり)

G葉は鋸歯縁;洋紙質;裏側脈・細脈は凸出し肋脈状

托葉は卵-長楕円形 葉(中脈除く)は両面無毛 宮城-群馬に分布(ユビソヤナギ節)

(GOHY、宮城群馬、河原)(高木;葉5細)【33ユビソヤナギ】(本種の は筆者同定品での検証である)

若葉は両面に細毛密生

葉表はほぼ無毛、中脈は微毛密生 微毛散生 葉裏はほぼ無毛、中脈は多毛

葉表緑、やや艶あり;裏白味あり

中脈は両凸;葉表は側脈やや凹、細脈不透視;葉裏は側脈・細脈が裏凸し、肋脈状(注);側脈は弓曲斜上する

ひら鋸歯-低波鋸歯? 鋸歯の先は尖る

成葉は披針形-線被針形、120-176mm、巾17-25mm;大葉で上1/3は漸尖頭

葉柄は毛密生 葉柄10-16mm

托葉は斜卵-長楕円形、3-8.5mm

若葉は淡褐帯びる;腺鋸歯が特徴(G縁は外曲する、H縁は著しく裏側に巻く、Y縁は少し巻く)

若枝は灰軟毛あり、後無毛 樹皮内面鮮黄色

(HP下山;ユビソヤナギは波状鋸歯であるが、先がわずかに尖る。オノエヤナギは完全な波状鋸歯で、先が尖ることは無い)

(図は実物を描いておらず不満足なものである;山口)